

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

県立益田清風高等学校 事業実施報告書④

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 岐阜県 】

1 実践テーマ	【 II・III 】
2 実施対象者	益田清風高等学校 陸上競技部 長距離部員（男子10名・女子5名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ①教科名（ ） ②行事名（ ） ③その他（ ） (2) 地域における活動 ①イベント名（ 飛騨地区長距離合同合宿 ） ②その他（ ）
4 目標 (ねらい)	約200人の集団が寝食を共にして生活・練習を行う中で、生活マナーを学び、互いを認め配慮しながら、自分の役割をみつけ出し、仲間のために行動するボランティア精神を育む。
5 取組内容	中学・高校の合同長距離合宿 独立行政法人 乗鞍青少年交流の家 周辺 対 象 飛騨地区の中学・高校生 長距離選手 期 日 8月16～19日 3泊4日 日 程 1日目 開校式 長距離選手の栄養学講座 meiji



2日目 地元の先輩から学ぶ：講師 青木 和（名城大学3年）



チーム対抗ミニ駅伝



3日目 体と心を整える 塚中一成（益田清風高校教諭）
4日目 閉校式

6 主な成果

普段の学校生活と部活動内の役割の枠を取り払うことで、思考的な部員間の相互理解が深まり、協力・協調の態度と行動が以前よりも強化された。

また、上級生という責任ある立場に立つことで、考え工夫し挑戦することができるようになった。

また、年下の中学生の体調を気遣ったり、顔色や様子に配慮して行動できるようになってきた。

そのような取り組みの中で、堂々とした態度が自然にとれるようになり、ボランティア精神が充分身に付くことができた。



7実践において工夫した点 (事業の特色)	生活と練習のグループ分けや場面設定においては、できる限り普段かとお合わせる学校単位の枠を外した人員構成に配慮した。 練習・生活共にグループで行動することで相互理解を図り、チームに対する帰属意識と他のグループよりも一体感を感じられるための競争意識を持てるようなプログラムや言葉かけによる評価支援を意識的に多くおこなった。 本校の生徒はこの行事のために1日乗鞍に早く入り、オリエンテーションから始まり、生活の約束ごとの確認・書き出し、部屋での過ごし方、参加者の体調把握と確認、練習の進め方について考えさせた。
8主な課題等	本校の生徒のイニシアチブ・リーダーシップにより合宿の運営をおこなっているが、他校の高校生にも役割を与えて責任感を育む体制づくりが課題。
9来年度以降 の実施予定	継続して実施する予定